

# 岐阜大学・鳥取大学 共同獣医学教育 開発推進センターの取り組み

○保坂 善真<sup>1</sup>、猪島 康雄<sup>2</sup>

1 鳥取大学 農学部 附属共同獣医学教育開発推進センター

2 岐阜大学 応用生物科学部 附属共同獣医学教育開発推進センター

# 共同獣医学教育開発推進センターとは?

- 平成25年（2013年）に共同獣医学科が発足
- 発足時に開設した学部附属組織（全国で唯一）

## ミッション

- ① 共同獣医学教育を有効かつ効率的に実施するための教育方法や教育内容の改善・開発・調整
- ② 共同獣医学教育に関する情報発信を通じた獣医学教育の質の向上と発展への寄与

# センターの組織

## 岐阜大学

共同教育マネジメント部門

2名 (1名はセンター長)

実践的共同教育推進部門

2名

## 鳥取大学

共同教育マネジメント部門

2名 (1名はセンター長)

実践的共同教育推進部門

3名

- ・ 両大学とも4~5名のスタッフ
- ・ 副センター長（センター長を補佐）を配置
- ・ センター長を含む全員が共同獣医学科教員と兼任（センター専属の教員はいない）

## 共同教育マネジメント部門

- ・ 共同教育全般の調整・管理
- ・ 共同教育ポリシーの進化推進
- ・ **初年次教育の推進**
- ・ 教育の改善・検証
- ・ 共同教育の調査・開発・成果の公表

## 実践的共同教育推進部門

(岐阜大学)

- ・ 臨床共同教育の調整・管理
- ・ アドバンス臨床教育の開発

(鳥取大学)

- ・ **インターンシップの調整・管理**
- ・ 共用試験対応
- ・ 総合参加型臨床実習の推進・改善
- ・ アドバンスト教育の開発

**センター運営委員会（協議会）**：センターの意思決定組織

センターの教育、管理運営等に関する重要事項の審議

センター長（委員長）、副センター長、兼任教員、委員長が必要と認める教員

\* 岐阜大学では他に、各課程選出教員および事務長が加わる

# 初年次教育の推進

一般教養科目（6単位）

大学入門ゼミ

1年次 2単位

教養基礎演習

1年次 2単位

大学教育導入演習

1年次 1単位、2年生 1単位

太字の科目を共同獣医学教育マネジメント部門が主導して担当

理想

卒業 入学

高校

大学



- ・ TeachingからLearningへ: 学びに対する姿勢のシームレスな変換
- ・ 基礎学力を基盤とした、獣医学専門知識の更なる重層化

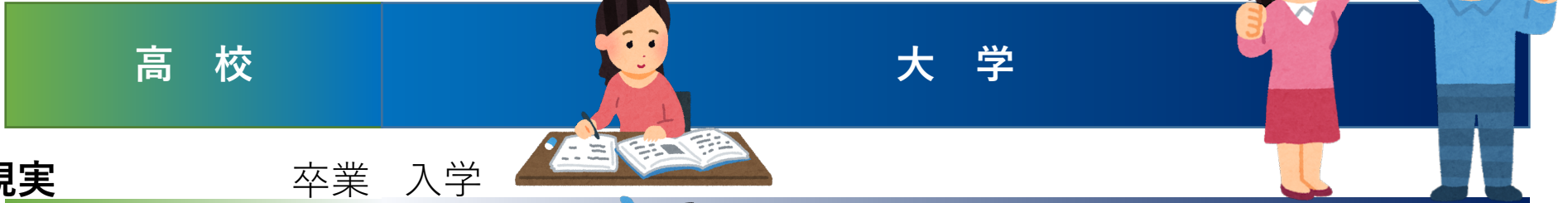
# 初年次教育の推進

一般教養科目（6単位）

- 大学入門ゼミ 1年次 2単位
- 教養基礎演習** 1年次 2単位
- 大学教育導入演習** 1年次 1単位、2年生 1単位

太字の科目を共同獣医学教育マネジメント部門が主導して担当

理想



現実



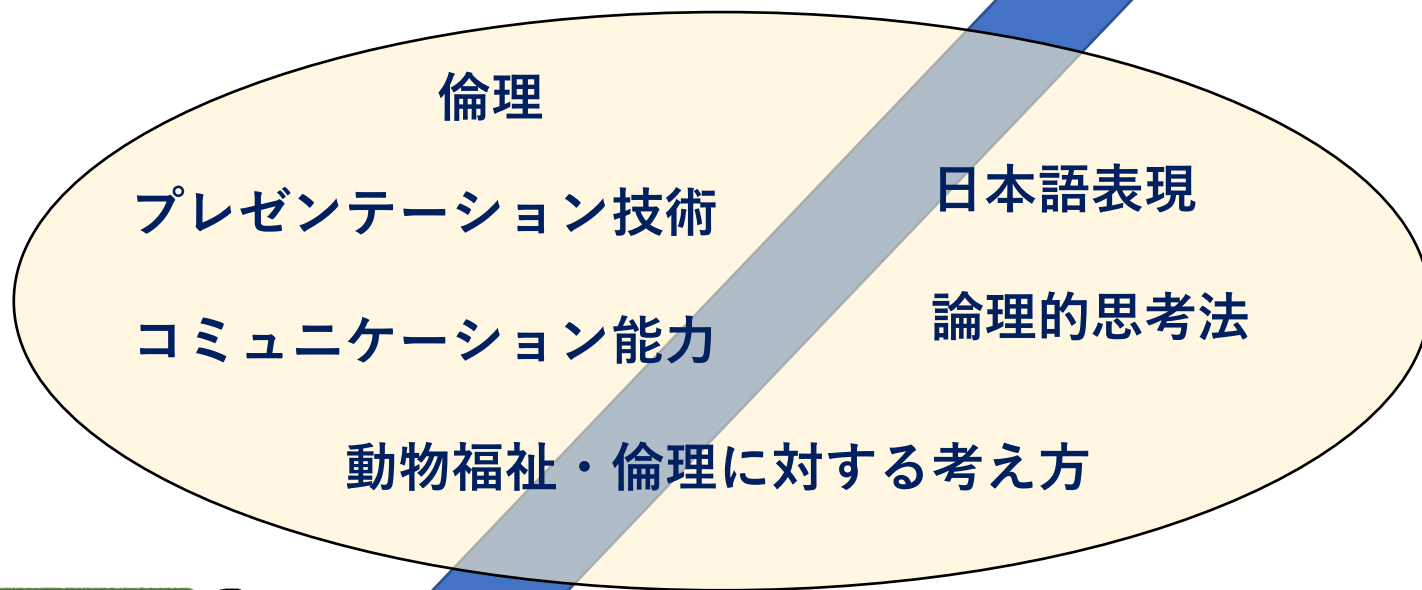
↑  
高校 → 大学  
学びに対する姿勢の変換が  
円滑にできない学生が発生

- ・ 学びの姿勢変換をサポート
- ・ 獣医学を学ぶ上で要求される  
思考法、表現力、倫理観を確認・認識

# 教養基礎演習

1年次（前期/後期）

学びの姿勢の転換  
受動的姿勢から能動的姿勢へ



学生5～6人/教員1人

教員が緻密な添削や助言を与えて、  
学生の能力の向上をはかる



- **倫理** 社会生活を営む上での倫理、倫理観、倫理的判断を理解する  
獣医師としての倫理感の必要性を理解する



- **日本語表現・論理的思考法**

科学的な日本語、科学レポートの基本事項を理解し、レポートを作成する  
卒論や科学レポート作成に必要な日本語能力と論理的思考法を涵養する

- **プレゼンテーション技術、コミュニケーション能力**

具体的な科学的事象をテーマにプレゼン資料を作成、発表する



- **動物福祉、倫理に対する考え方**

実験動物の取扱い方、動物実験の在り方を理解する  
獣医師に求められる実験動物に対する動物福祉、倫理について理解する

- 獣医学教育を受ける上で求められる**基盤的な能力**を早期に構築  
**日本語表現能力、論理的思考法、プレゼン技術**

- 獣医師に求められる動物福祉観や倫理観の醸成とレベルの平準化

# 大学教育導入演習

1年次、2年次の夏期集中  
4泊5日（移動日を含む）



両大学の学生が相手大学を訪問し、合同  
で実習を行う（学生移動型実習）



## 獣医学領域の多様性の理解

1年生（鳥取）

鳥取県の畜産関連施設（畜産試験場、放牧場）で  
飼養衛生管理、疾病予防対策、繁殖管理などを学ぶ

2年生（岐阜）JRA競走馬トレセンやうかいミュージアム  
見学や講話を通して獣医師の活躍分野の多様性を学ぶ



早期の実体験を通して、獣医学領域の多様性を理解、学習の動機付け



# 大学教育導入演習

## 一体感の醸成

両大学混合の班編成

施設の見学や実習

課題に対する討議

レポートやプレゼンテーション資料作成と発表

宿泊施設での班単位の食事、部屋割り・宿泊

実習期間中の自由行動



「スクリーンに映る学生」 → 「ともに学ぶ仲間」という一体感を醸成

# 大学教育導入演習

学生**移動型**実習



**移動制限**



## 2020年度

コロナ感染拡大予防のため県境をまたぐ移動（学生、教員）が制限

**遠隔講義システム**を用いて実施

- ・一部の学生、教員が事前に実習現場を訪れ撮影  
撮影動画をもとに担当者が講義
- ・両大学の学生がシステムを介して自己紹介

## 2021年度

コロナ感染の収束が見通せない 対面での授業実施が厳しく制限されている

**オンデマンド型（1年生）/遠隔システム（2年生）**での実施とする予定

- ・ 現地での実習が出来ないため、実体験をどう補填するか
- ・ 学生間の直接的交流がないため、一体感を形成できるのか？

# インターンシップの調整・管理

## インターンシップ科目

獣医学インターンシップ・・・動物病院、NOSAI、動物園/水族館

1～6年次 1単位（選択）

国際獣医学インターンシップ・・・ケンブリッジ大学動物病院実習 2週間

5年次 1単位（選択）

**家畜衛生・公衆衛生インターンシップ**

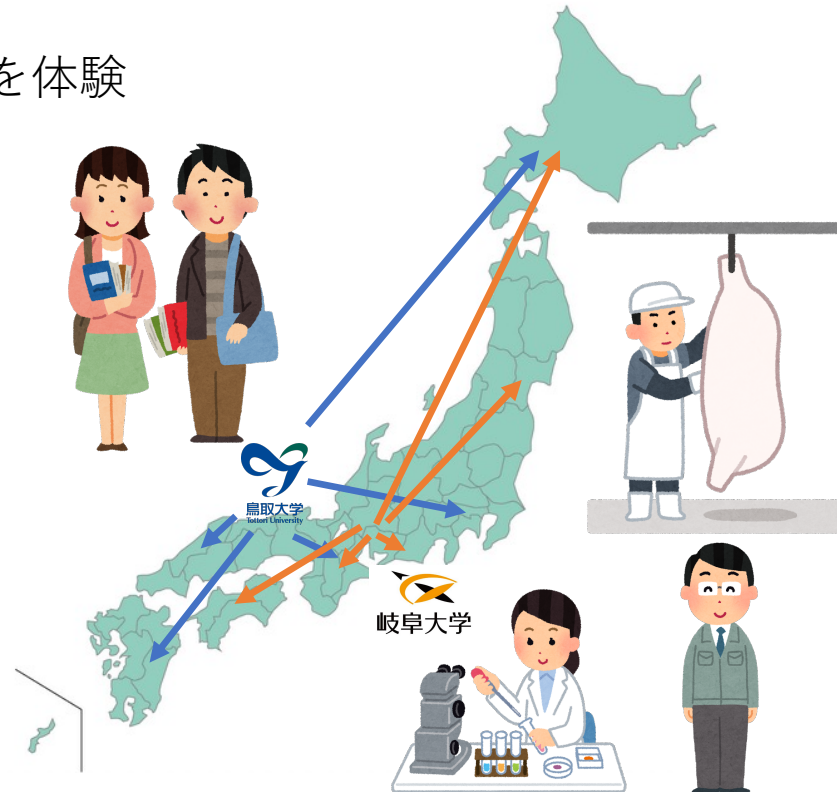
4～6年次 1単位（必修）

## 公務員獣医師

都道府県の獣医事（家畜衛生、公衆衛生）業務を体験  
国の機関（農水省、厚労省）でも可

期間は原則5日間以上

- ・ 共同獣医学科発足時に必修科目に
- ・ 獣医師に求められる実践力を養成
- ・ 公務員獣医師の社会的意義を再認識させ、自身のキャリア形成を見直すきっかけに



# 家畜衛生・公衆衛生インターンシップ

原則、学生が希望実習先と  
直接交渉

場合によってはセンターがサポート

受入予定の各自治体には、本インターンシップの趣旨説明と学生受入の依頼を行う

就職説明会時に来学する  
自治体職員に直接申込



中央畜産会やVP Campの事業を利用



自治体HP、大学の掲示板等でみつけ  
直接または大学経由で申込



これまで構築してきた大学と自治体との  
信頼関係を活用する場合も

**自主性、交渉能力、情報検索能力の向上を期待**

## 2020年度

学生受入を複数の県が停止

受入決定後 感染拡大のためオンラインで実施

インターンシップの受入延期、または中止

5年生の春休み、6年生前期に実習を実施

## 2021年度

複数の県で学生受入の縮小、停止、延期、中止

センターが、学生の実習先の確保をサポート

**インターンシップ導入前後での卒業生の公務員への就職者数に顕著な変化はない**

**しかし、公務員獣医師の社会的意義の理解を促すためにも、本インターンシップは必須であると考えている**

# 結びに

共同獣医学教育開発推進センターは、

- ・初年次教育や実践的な学習体験による獣医学教育（基礎力の養成、獣医学の理解など）を担う。
- ・社会要請に呼応する獣医学専門教育の推進拠点として、機能充実を図っていく。